

理念体系

ありたい姿

価値を創造し続ける企業グループへ

私たちは、事業活動を通じて社会課題を解決し、ステークホルダーとともに、サステナブルな社会と成長をめざします。

魅力あふれる多彩なライフスタイルの創造を通じて、誰もが自分らしく、いきいきと輝ける未来を実現します。

社会との約束

私たちは、あらゆるステークホルダーの満足度の総和が企業価値になると考えます



創業の精神

「挑戦するDNA」

理想のまちづくりをめざして先駆的に取り組んだ田園調布の開発以来、受け継がれる進取の精神

創業の原点

渋沢栄一がめざした 社会課題の解決と 田園都市構想

当社グループの源流となる田園都市株式会社を設立した渋沢栄一は、経済発展に伴い大都市で顕在化した住宅難や生活環境の悪化といった社会課題に対し、明治・大正期にイギリスで提唱されていた田園都市構想を日本流に解釈し、郊外の緑豊かな住宅地から都心へ電車で通勤するという新たな生活スタイルを世に提示しました。

以来私たちは、都市の利便性と自然のやすらぎが両立したまちづくりをめざして事業を展開しています。

田園都市構想の礎となる田園調布

近代化に伴う社会課題に対し、多摩川台地に広がる農地や雑木林を開発し、田園都市構想を日本の風土に適應させた、斬新な郊外型住宅都市の建設に挑みました。この構想は当時としては非常に先進的で、その後、渋沢栄一の意志を受け継いだ五島慶太（東急グループの実質的な創始者）が、田園調布エリアの開発を本格的に進めています。田園都市構想に基づくまちづくりは次第に全国へと広がり、現代日本における郊外型都市開発の礎となりました。



写真提供：東急(株)

渋沢栄一 | 1840～1931

当社グループの源流となる田園都市株式会社を設立。日本経済の基礎を築いた「日本資本主義の父」と称され、明治から昭和初期まで活躍。約500もの企業の設立と育成、約600の社会公共事業、慈善活動などの支援に尽力した。



1956年、渋谷駅前に営業所を開設

大胆な事業再編

五島慶太の死後、事業領域を示し、拡大した事業の合理化による再編を断行したのが息子の五島昇でした。昇が常に求めたのは、可能性の限界まで力いっぱいぶつかっていくバイタリティー。正攻法で挑んだ結果であれば、失敗も許容し、むしろその失敗が人間を成長させる勲章になるという哲学のもと、大胆な事業再編を決断します。その過程で、東京急行電鉄の不動産部門を分離独立させ、東急不動産を創業。新たな成長の柱を育成しました。

1965年、都市インフラの整備と消費文化が急速に拡張するなか、渋谷駅前に「渋谷東急ビル」が竣工しました。民間デベロッパーによる専門店複合商業ビル第1号として「渋谷東急プラザ」(現：東急プラザ渋谷)を併設し、駅周辺の整備にも寄与した、先進的な商業施設を提示する挑戦でした。人の流れと消費行動の変化を先読みし、既存の業態や常識にとらわれず、都市の未来を構想し続ける姿勢は、現在も受け継がれる当社の「挑戦するDNA」を体現している事例です。



1965年に竣工した「渋谷東急ビル」

渋谷東急プラザ 開業

国際展開の先駆者

1956年に戦後初の民間人としてパラオを訪問し、美しい自然と文化に惹かれた昇は、1984年に「パラオ パシフィック リゾート」を開業します。この時「ヤシの木より高い建物は建てるなよ」と開発現場を監督し、地域環境への配慮を訴えました。昇は常に「本当にその土地の人々のためになる仕事をやるのだ」と言い続け、環境保全と観光開発という二律背反するテーマを調和させる手段を模索し続けました。



1984年に開業したリゾートホテル「パラオ パシフィック リゾート」

創業の精神

五島 昇から受け継ぐ

挑戦するDNA

私たちは、不動産開発などの単なるハコやモノを提供するだけにとどまらず、枠にはまらない発想で果敢に挑戦をしてきました。創業以来、その進取の精神は現在に脈々と受け継がれ、当社グループの競争優位性として根づいています。



写真提供：東急(株)

五島 昇 | 1916～1989

東急不動産株式会社 初代社長

東急不動産の初代社長および東京急行電鉄社長として東急グループを牽引。大規模なまちづくりやリゾート開発などに取り組み、日本商工会議所会頭も務めた。

OPENING ARTICLE

理念を体現する街

「広域渋谷圏」



「働く」「遊ぶ」「暮らす」が融合した「複合的なまちづくり」

日本を代表する流行の発信地となった渋谷と、原宿・恵比寿・代官山など個性豊かな街を含めた「広域渋谷圏」において、私たちは「働く」「遊ぶ」「暮らす」が一体となった複合的なまちづくりを展開しています。渋谷駅周辺はオフィスや商業施設が集まり、ITやクリエイティブ産業の拠点として存在感を高めています。加えて、住宅地を整備し、都心で暮らすというライフスタイルの選択肢も広がっています。こうした取り組みは、人々に新たな体験価値をもたらすだけでなく、広域渋谷圏の個性やにぎわいを持続的に高める地域価値の創出につながっています。さらに、環境課題の解決を事業活動と一体で推進することで、街の成長とビジネスの持続性を両立させる環境価値を創出してきました。私たちがめざすまちづくりとは、広域渋谷圏のように、生活と仕事、余暇が自然に交差する環境を生み出し、都市としての柔軟性と魅力を最大化することにあります。





価値創造の歩み

当社グループの創業の精神「挑戦するDNA」のもと、社会課題の変化に向き合いながら、その解決を通じて事業を進化させてきました。

主な会社の設立



1958年

業界初の分譲集合住宅
「東急スカイライン」竣工

住宅難を解消

日本が第二次世界大戦後に復興を果たし、高度経済成長期を迎えた一方で、都市圏への人口集中などにより住宅難が顕在化。その解消に向け、当社グループは拠点である渋谷を中心に住宅と商業施設を供給しました。



東急スカイライン

※ 譲渡当時の社名

（注）1953年度から1992年度は東急不動産単体、1993年度から2012年度は東急不動産連結、2013年度以降は東急不動産ホールディングス連結の営業収益を掲載

1982年

日本最大級のまちづくり
「あすみが丘ニュータウン事業」着手

生活の質向上

生活水準の高度化により、人々の価値観が多様化するなか、不動産管理や仲介、小売、リゾートなど多角化を推進し、生活総合サービスを提供する企業グループへと成長しました。



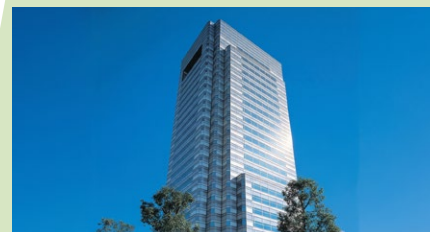
あすみが丘ニュータウン

1993年

グループ初の超高層オフィスビル
「世田谷ビジネススクエア」竣工

ライフスタイルの変化

日本経済の停滞が長引くなか、地価が下落し人口は都心に回帰。また、人々の生活様式や価値観が変化し、当社グループも郊外型住宅の開発からオフィス・商業施設などの賃貸事業へ軸足を移行しました。



世田谷ビジネススクエア

2014年

再生可能エネルギー事業開始

2018年
事業ブランド「ReENE」展開

サステナブルな社会づくり

地球規模の気候変動やデジタル社会への対応、本格的なインフレの到来などを踏まえた市況変動への耐久性を高め、当社グループの強みを活かしたサステナブルなまちづくりを推進し、経済と環境の持続可能性を両立させた価値創造に取り組んでいます。



リエネ松前風力発電所